

京都代協

盛大に新春懇親会開く

「よく見て、よく聞いて、よく言う」

京都代協(田中康三会長)は1月21日午後6時から、京都市下京区のホテルクラウンヴィア京都で、会員ら約140名参加のもと、新春懇親会を



約140名が参加

開催した。来賓として梅本幸博協会近畿支部長、京都損保協会会長、各損保会社京都支店長ら、および田中英之衆議院議員、二之湯智参議院議員、安藤裕衆議院議員、藤原誠司、福山哲郎各事務所秘書等、北神圭朗元衆議院議員が出席し、盛大な催しとなった。

最初に損害保険トータルプランナー認定授与式が行われ、梅本氏から当日参加の4名の受講修了者に記念品が手渡された。

田中会長が冒頭挨拶に立ち、5月29日施行予定の改正保険業法に触れ、新たな時代の幕開けが目前に迫っており、意向把握、情報提供、体制整備義務への万全の準備を呼びかけた。また先般大幅にリニューアルした京都代協ホームページの積極的な利用を促した。最後に「今年は申年だ。見ざる・聞かざる・言わざる」という言葉があるが、今年の京都代協のスローガンは『よく見て、よく聞いて、よく言う』とし、しっかりとやって参りたいと考えている。皆様のご協力をお願いしたい」と述べた。

来賓を代表し、まず梅本氏が挨拶。「本年は5月に改正保険業法が施行され、これまでにない新たな規制が導入される、非常に重要な年になる。募集品質を向上させることが金融庁の第一の意図であり、お客様に安心して加入いただき、よりよいサービスを提供していくことを今後一層進めていかなければならない。大変な面もあるかと思うが、受身ではなくこれをチャンスとして、取り組みたい。損保協会としても、会員各社へのガイドラインの提供、有益な情報の提供などにより代理店の皆様の経営をバックアップしていきたい」と述べた。続いて、田中議員、安藤議員、二之湯議員がそれぞれ挨拶した。3氏は保険商品と、それを扱う

等への経営支援をぜひ目指してほしい」と述べた。そして、中崎氏は、地域プロ代理店の活路として、中途半端な大規模化・大型化はせず、スタッフ5~10名程度のシンプルな組織で、経営者の目の届く範囲での規模による生産性の高い全員参加型の「コンパクトモデル」代理店という事業モデルを提示。このコンパクトモデルを拡大発展させ、組織分業の良いところを組み込んだ「ハイブリッドモデル」代理店についても語った。

兵庫県代協

中崎氏が記念講演

新年賀詞交歓会を開催

兵庫県代協(鈴木美恵子会長)は1月22日、神戸市中央区のグリーンヒルホテル神戸で新年賀詞交歓会を開き、会員や損



約70名が参加

益している保険ジャーナリストの中崎章夫氏が「保険業法改正をビジネスチャンスと捉える―地域プロ代理店の活路を考える」と題し、話した。

冒頭、金融とITの融合による新たなサービス「フインタック」をは

じめ、自動運転技術やテレマティクス保険の進展、ビッグデータの活用など、近年、国内外で注目を集めている金融・保険を巡る動向、市場環境の変化について概説。さらに改正保険業法がもたらす販売現場へのインパクトなどについても言及し、保険代理店にとって、今は歴史的な局面転換点であるとした。

とくに将来、自動運転車が実用化されると、保険のあり方自体が変わるため、自動車保険をメインにした経営では、いずれシリ貧状態になる可能性がある」と指摘。今の段階から経営の見直し、新

たな仕組みづくりに向け、動き出すべきだとした。その際の切り口となるのが「生活支援業(経営支援業)」だと述べた。「地域プロ代理店の優位性である『信用』『信頼感』『人間性』『きずな』といった価値を生かして、徹底してヒトの生活、ヒトの人生にこだわりの、寄り添う事業展開が求められている。規模の大小の問題ではない。単なる保険販売業から、いざというときに身近で頼りになる存在として、お客様の人生を豊かにし、お客様の不幸を減らすための、お手伝いや提案をする生活支援業、事業所

で、参加者間で交流を深めた。